

「教職課程に必修科目として位置づけるための 学校インターンシップのあり方」

調査の概要

◆課題認識

有意義な学校現場での体験を、大学で学ぶ理論と融合させて質の高い実践的指導力にまで高めていくために学校インターンシップを教職課程に位置づけていくことが重要な課題である。

◆調査研究の目的

- ・理論と実践の往還を目指した学校インターンシップの実施内容のあり方
- ・既存の教育実習との役割分担のあり方
- ・学生に対する事前・事後指導のあり方
- ・教育委員会との連携のあり方、学生側と受け入れ校側とのWin-Winの関係構築のあり方、情報提供のあり方

◆調査研究の方法

- ・学校インターンシップを試行し、協力校へのアンケート調査、学生へのヒアリング等を行う。

◆調査研究校

- ・所沢市・富士見市・川越市・朝霞市・三芳町（4市1町）教育委員会とその管理下の小学校

◆現状

- ・1年次・2年次；実践科目（フィールドスタディー）で、2週間にわたる小学校現場での実習
- ・2年次・3年次；近隣の4市1町の教育委員会の管理下の小学校での学校ボランティアの実施
- ・4年次；教職インターンシップの実施

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

学校インターンシップ受け入れ小学校等の理解を得るために所沢市・富士見市・川越市・朝霞市・三芳町教育委員会やその管理下の小学校との連絡を密にする工夫。

②ポイントB

学生に対する受け入れ校の指導や評価への負担軽減の工夫として、受け入れ小学校に評価用ループリッックを配付し、それを使って実習中の学生の評価を依頼し、負担軽減を図る。

③ポイントC

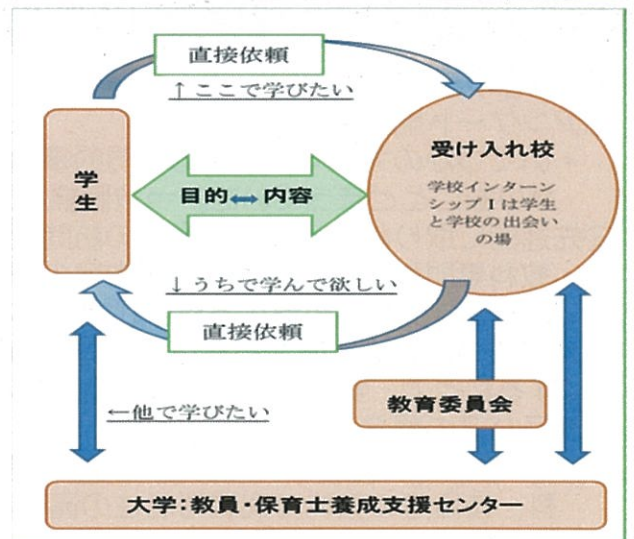
事前・事後指導、実習中の指導の工夫として、学生に学校インターンシップを通して、何を学びたいのかを明確にさせ、実習体験と理論とを関連付けた「省察」の指導をする。

④ポイントD

大学、学生、教育委員会、小学校現場がそれぞれWin-Winの良好な相補関係を築く連携の仕組みやニーズ、情報提供のあり方について共通認識を図っていくためのシステムの構築を図る。

◆成果

理論と実践の往還を目指した学校インターンシップの実施内容のあり方、既存の教育実習との役割分担のあり方、学生に対する事前・事後指導のあり方、教育委員会との連携のあり方、学生側と受け入れ校側とのWin-Winの関係構築のあり方、情報提供のあり方が明らかになった。



今後の課題

◆情報提供と連携のあり方

- ・学校インターンシップに関する情報提供・情報取得のためのシステム構築
- ・小学校・教育委員会・大学間連携の立場から見た学校インターンシップのニーズの把握と連携の仕組みの構築